

平成 28 年度第 2 回富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議
(概要)

日 時：平成 29 年 2 月 28 日 (火) 10:00～11:30

場 所：県庁 4 階大会議室

説明事項：(1) 平成 28 年度 富山県中小企業振興施策 (実施状況) について
(2) 平成 29 年度 富山県中小企業振興施策 (当初予算) について
(3) 国の中小企業振興施策等について (中部経産局、富山労働局)

委員からの主な意見

- ・各経済団体の実務クラスの職員に対し、中小企業振興施策についての説明会を行ってほしい。
- ・富山県以外の自治体ですで行われている取組として、一般消費者による県内企業が新開発した商品等のモニター制度があるが、このような仕組みを富山県でも構築してほしい。
- ・中小企業といっても業種や規模、経営状態など多種多様であるため、何らかの分類を行い、それぞれに対する施策を行っていくべき。
- ・中小企業の経営者の平均年齢が高齢化している中で、特にいま求められているのは事業承継のための大胆な税制に関する支援策である。
- ・第 4 次産業革命 (IoT、AI 等の新技術) の活用方法や導入に関する相談窓口を設置してほしい。
- ・十分な社員教育システムの無い中小企業等に対し、継続的に人材育成支援を行ってほしい。
- ・高岡市等の県西部で特に盛んな伝統工芸産業に対する支援は非常に重要で、昨今、首都圏や海外でも富山のものづくりが評価されつつある。今後も、行政と経済団体が協力して販路開拓、若手の育成等に対する支援をしていきたい。
- ・新卒社会人に対する教育制度の創設と、外国人の人材確保のための施策を、大学等の教育機関と連携して行ってほしい。

- ・中堅やシニア層を対象とした人材育成支援を希望する。
- ・富山県は技術力のある企業が多いが、PR等の情報発信が苦手な傾向がみられるため、販路開拓に関する支援及び、制度の周知を強化すべき。
- ・人材確保について、県外から富山県内の大学に進学している学生などに対し、県内企業に関する情報発信が重要である。
- ・県内企業の優れた技術力や、富山県の魅力などを情報発信する際は、メディアの活用方法や展示の場所や方法など、発信する内容に応じた効果的な方法を検討してほしい。
- ・大学生の就職状況は極めて良好。今後は、県外出身学生や、UIJターン希望者に対する働きかけを強化してほしい。また、富山県は他県と比較して大学の収容率（募集人数/進学希望者数×100）が50%程度と低いため、より拡充を図る必要がある。
- ・IoTやAIの活用方法や人材育成について、県が中心となり、機電工業会等と産学官連携して研究してほしい。
- ・高校生の段階でUターンを意識させることは難しいが、富山中部高校では地方創生セミナーとして、富山県の魅力や、優良企業などについて学ぶ取組を行っており、他の高校にも普及したい。
- ・北陸3県では、休廃業・解散件数が、倒産件数の5.1倍に上り、事業承継や事業継続を断念した中小企業者等が約900件もあることから、事業承継支援および創業支援は力を入れて取り組むべき課題と考えている。
- ・財務局は各団体に対し、年度末にむけて、中小企業・小規模事業者に対する資金繰り支援や、担保や保証に必要以上に依存しすぎないような融資あるいはコンサルティング機能の発揮を要請している。